

女子部が行く!

学会探訪記

第10回 事業運営委員会

—全国大会を盛り上げよう!—



レポーター 加藤由花 (東京女子大学)

今回は、2016年6月21日に開催された「第79回全国大会プログラム委員会(第1回)」の様子をお伝えする。全国大会は、1年に1度開催される本会最大のイベント。参加者数は毎年3,000～4,000人ほどで、第79回大会は2017年3月16日～18日に名古屋大学東山キャンパスで開催される^{☆1}。近年、大盛況が続いており、IPSJ-ONE^{☆2}をはじめ開催イベント数が増えたり、ニコニコ生放送で動画中継が行われたりと、研究成果を発表する場であるだけでなく、参加して楽しい、企画もりだくさんの大会になっている。これだけの規模の大会になると、その企画・運営の大変さは容易に想像がつくと思うが、実際、1年以上前から会場の選定や手配、スケジュール調整等が進められ、プログラム委員会も前年の6月に始動する。さて、委員会ではどんな議論が繰り広げられるのだろうか?

事業運営委員会って?

委員会の様子をお伝えする前に、本稿のタイトルについて少し説明しておきたい。この学会探訪記は、基本的には学会内のさまざまな組織(主に委員会)の活動を会員の皆さまに知ってもらうことを目的にしており、そのため、記事のタイトルは委員会名になっている。今回取材した全国大会プログラム委員会は、本稿のタイトル「事業運営委員会」が管轄している。名称だけからは少し分かりにくいですが、全国大会のほか、情報科学技術推進委員会、FIT運営委員会、プログラミング・シンポジウム運営委員会、プ

ログラミングコンテスト委員会を担当しており、学会が主催するさまざまな大会を取り仕切っている重要な委員会であることが分かる。今回はその中でも最大のイベント、全国大会に焦点を当てる。

プログラム委員会開始!

はじめじめとした梅雨のさなかの化学会館会議室、午前10時から委員会は始まった。今回は第1回目ということもあり、まずは間瀬健二プログラム委員長、河口信夫大会実行委員長のあいさつ、そして各委員の自己紹介が行われた。委員会のメンバは、事業担当理事、会誌担当理事(ということで私もプログラム委員の1人として委員会に出席した)、会誌編集委員会各ワーキンググループから1名、研究会各領域委員会から1名、論文誌編集委員会から1名、委員長推薦による若干名であり、学会のさまざまな組織からの意見を幅広く取り入れられる構成になっている。全国大会のプログラムにかかわる企画、立案を行うのが委員会の役割で、具体的には、新企画の立案、一般講演の企画、招待講演・公開パネル討論の企画・折衝・会期中の対応、委員会外からの企画・提案についての採否の決定、プログラム編成、座長選定、受賞候補者選定などなど、さまざまな任務に携わることになる。本日の中心議題は、このうちのプログラム編成の大枠を決めること。実はこれがなかなか困難な作業で、2時間という限られた時間の中でいかに魅力的なプログラムを編成していくか、委員のがんばりどころである。事務局からの今後のスケジュールや会場説明等の後、我々は早速プログラム編成の議論に入った。

ここで簡単に、全国大会のプログラム構成を説明

☆1 第79回全国大会, <http://www.ipsj.or.jp/event/taikai/79/index.html>

☆2 IPSJ-ONE, <http://ipsj-one.org/>



図-1 委員会の様子。資料とにらめっこしてプログラム編成を行う

しておこう。全国大会のプログラムは、大きく分けると3つの種類に分類される。①一般公募による講演、②プログラム委員会が企画するイベント企画（大会全体の招待講演とプログラム委員会が提案するイベント企画）、③学会（既存の委員会等）から提案されるイベント企画である。本日の議論の対象はこのうちの②と③になる。①については、12月の講演申し込み後に、プログラム編成ワーキンググループ（全研究会から選出される委員で構成される）によりセッション割りの決定や座長の推薦などが行われる。

プログラム編成に一苦労

ということで、提案されたイベント企画の一覧表が配布され、プログラム編成作業が始まった。今回の企画提案数は、全国大会プログラム委員会から6件、学会委員会（デジタルプラクティス編集委員会など）から6件、研究会から4件の計16件。これを全体スケジュールの中のイベント企画の枠に当てはめていくわけだが、その前にまず、内容が全国大会の企画としてふさわしいか、テーマの重複はないかなどの審議が行われる。提出された企画案1つ1つについてイベント概要を確認しながら作業を進めるのだが、どれも提案者の思い入れが感じられる魅力的な内容で、全国大会の盛り上がり期待できる。審議の結果、ここ数年の定番企画（論文誌編集委員会による「論文必勝法」など）から、研究会によるホットな話題提供まで、多彩な企

画が採択された。一部、タイトルに重複がある提案があったので、提案者間でタイトルや内容の調整をしてもらうことが確認された。

採択企画が決まったところで、次はプログラム編成作業に進む。今回のイベント会場は、それぞれ収容人数や設備の異なる3カ所。表彰式や大会招待講演、IPJSJ-ONEなど、プレナリーセッションとして行われるイベントも存在するので、提案イベントに割り当てられる枠（例：3月16日（木）13：00～15：30など）は17カ個所である。イベント数は16なので、とりあえず順番に埋めていけば良いように思うが、実はここからが一苦労である。考えなければならない制約事項がいろいろとあって、なかなかうまく収束しないのだ。我々はまず、イベント提案者の希望（日時と収容人数）を基に事務局が作成してくれた案を見ながら、1つ1つ確認する作業を始めた。そうすると、提案者の都合で連続開催を希望するイベントがあったり、聴衆がかぶると考えられる複数のイベントは別の時間帯にする（パラレルにしない）方が良いという意見が出されたり、さらに平日が望ましいイベント、土曜が望ましいイベントがあったり、また、第1イベント会場の様子はニコニコ生放送での動画中継が予定されているので動画中継に適したイベントをここに入れたいたいという要求もあがってきたりと、一度決まったと思った案を再度見直すという作業が何回も繰り返されることになった。当初は、[図-1](#)のように、資料とにらめ



図-2 プログラム委員の集合写真（前列左から長谷川事業担当理事，間瀬プログラム委員長，河口大会実行委員長）

っこしながら「こことここを入れ替えて…」というようなことをやっていたのだが，すぐにらちがあかなくなり，即席で作成したエクセル表の枠にイベントを当てはめながら，どうにかこうにかプログラムが確定されることになった．委員会は12時終了の予定であったが，すべての作業が終了したのは13時近く．皆さま，大変お疲れ様でした．

さらに…

イベント企画のプログラム編成を行いつつ，大会プログラムに関するそのほかの事項の確認も行われた．第77回大会から始まった託児所の設置や情報保障（イベント会場での字幕付与とその他要望に応じた対応）は今大会でも実施予定であるし，2015年に引き続き学生向けの情報系エンジニアキャリアセッションも開催される予定だ．「大会スロージャン」は，本来，イベント企画の前に決めるこ

とのようにも思えるが，今回はプログラム委員長から「オープンイノベーション」のキーワードが提案された．第2回のプログラム委員会で決定されるのだそうだ．また，大会招待講演についても次回の委員会で議論されることになっている．その次回委員会であるが，盛夏の東京で8月21日に開催される．長丁場だが，来年の3月まで，プログラム委員会の奮闘は続く（図-2）．

2017年は名古屋が熱い！

間瀬委員長によると，2017年は多くの学会イベント（電子情報通信学会総合大会，人工知能学会全国大会，ロボカップ2017など）が名古屋開催を予定しているそうで，まさに名古屋が熱い！のである．第79回大会の講演申込み締切は，例年より遅めの12月9日である．来年3月，ぜひ名古屋でお会いしましょう！

(2016年8月2日受付)

